松屋農業生産組合が来年度の栽培に向けて
反省点を確認しました

長門農林事務所畜産部
平成22年11月25日

11月22日、松屋農業生産組合と下関農林事務所畜産部ほか関係機関（農林技術センター（畜産技術部部・農業技術部)、下関市、山口県酪、ＪＡ下関）が参集して、今年度の飼料イネ栽培実績や生じた課題及び来年度の取り組み等について協議しました。

松屋農業生産組合では、平成21年度から飼料イネＷＣＳを栽培し、22年度には新たに国の育成新品種「たちすずか」を栽培しました。

播種時に天候が不良であったこと、その後の用水等の管理が適正でなかったこと等により発芽揃いが悪く、収量も1400kg/10a余りで、多収が期待できる品種の特性を活かせない結果となり、また、一部「ヒノヒカリ」の移植に切り替えたほ場もありました。

23年度は、「たちすずか」を直播きで栽培することとし、管理を徹底し良質な飼料イネＷＣＳ生産に取り組むことを確認しました。

役員会での検討状況